

日九十月 磐城時報

編輯兼發行所 磐城時報社
印刷所 加納活版所
電話 二四一
廣告料 一行十四字 一月五拾錢
▲日刊(日曜、祭日)休刊

五千號を迎ふ

本紙が石城地方に於ける最初の新聞紙として呱呱の聲をあげたのは明治四十三年、知美土屋寛氏が旬刊磐城時報を刊行したのに創まる。爾來實に二十余年の日月を經過した、その頃の石城地方には本紙以外に地方新聞なく暗に光明を得た如く地方民の歓迎をうけつゝ政界は勿論、經濟、思想、教育等々總ての方面に堂々たる論陣を張り正に社會の木鐸として恥ぢざるものがあった。其後日刊に改めるや間もなく主幹土屋寛氏は病を得て長逝するに及び、佐藤作平氏が代て事業を繼承するに至り更に躍進又躍進、正義の味方となり、社會の公敵を膺懲し、公平無私なる新聞紙として今日に至つてゐる。創業者土屋氏は機智に長じ磊落にして而も仁侠に富み地方民多數から多大の敬意を拂はれてゐた人で、而も創業に際しては粉骨碎身の努力で終始したるのを知り追憶の涙更に新なるものがある。二十年の歳月は決して短くはない、その間凡ゆる迫害をうけ或ひは筆禍に遭ひ更に又經濟界の變動に際しては經營上の脅威さへも感ぜしめられた事一再に止まらなかつた、而も本紙はかゝる總ての難關を突破し不撓不屈の姿で正義を絶叫しつゝ現在に至つてゐる、而して今月今日遂に創刊五千號に到達し得たのである、山腹五千號の過途に想到すればそこには感激あり悲哀あり、之を一巻とす

衛生活動寫眞

平署では衛生週間の資金募集のため二十四日、二十五日の兩日平町警察館に於て衛生活動寫眞會を開催するが、小名濱、江名、湯本の各町でも開催する。

武道大會選手

内務省主催の第二回警察官武道大會は十月十六日、十七日の兩日東京市で舉行されるが、本縣選手のうち平署から出場する者は鈴木四段、高橋四段の兩名である。

水道工事に先ち敷地三千坪を買収

平町水道擴張工事は十八日地鎮祭を兼ねた起工式も無事終了したので直ちに工事に着手する筈で二十五日頃までには人夫約二百名を備へ入れる事となつたが先づ第一番に沈澱池、濾過池、事務所等の敷地三千百一十一坪を好間村に買収せねばならぬので二十日午前十時から用地に關する委員會を開き買収方法を協議する事となつたが、委員顔觸れは左の如くである。

臨時總代會

石城郡販賣利用組合總代會は十八日午後一時から四倉町南市場に開き役員増員の件を可決し選舉の結果左の如く當選した。

久濱神社祭典

双葉郡久之濱町字仲町諏訪神社祭典は九月十九日執行。有志及び青年團員主催で四倉藝妓手踊の屋臺を出す。

青沼録太郎、關内正一

猪狩正平、大森勇、千葉彦治、櫻井清、柳下元吉、佐藤岩次、郎、佐々木龍若、吉田寅之輔、青沼録太郎、關内正一

取引買数は増加したか

價格は一萬五千圓減
養蠶家の苦境が窺はれる
四倉繭市場成績

石城販賣利用組合經營の四倉繭題からわづか九百圓の經費を市場は秋蠶取引開始以來二十余節減するため八百圓經費をかけた日で十月十日まで取引をなす筈で總會を開く事の不當なごさもあるが、十七日までの取引總額も一と波亂なければ納まらぬは二万一千二百九十貫で昨年同様の取引一萬六千八百貫に比較すると貫數に於て一萬一千二十一貫の増加であるが、價格に於ては前年度の落つたため昨年度は十七日までの總取引價格五萬七千六百三十圓であつたが、本浦村大字下仁井田根澤豊(十七)年は四萬二千三百六十圓で、一假名は十九日検査局に送られた。

木炭同業

あす臨時總會
濱三郡木炭同業組合の臨時總會は十月二十一日午後十一時からの申請で明二十日午前十一時から開催することになつたが、同家の自轉車に積んで逃走し半検査手数料の値下を始め検査員署に檢舉され取調べ中の事既報の給料寄附納入によつて検査員の通りであつたが、十九日平刑三名の減員を中止するといふ問務所に收容された。

二人組泥棒收監

石城郡湯本町字寶海小川寅之助(三三)同町入山炭礦坑夫村上源太郎(三三)の兩名は七月二十一日は評議員小松幹夫氏外二十一名日湯本町字三國雜貨商西牧藤八からの申請で明二十日午前十一時から開催することになつたが、同家の自轉車に積んで逃走し半検査手数料の値下を始め検査員署に檢舉され取調べ中の事既報の給料寄附納入によつて検査員の通りであつたが、十九日平刑三名の減員を中止するといふ問務所に收容された。

損害を辨償せぬ倉方

信用組合から説諭願
石城郡夏井村大字菅波渡邊勇造前記渡邊勇造も四百圓を支出すは昭和二年六月から同四年七月の事に決つた處未だ一文も支拂迄大浦農業倉庫の倉方をしてゐるは信用組合では同人が組合に有するその内昨年七月倉庫内の百圓の預金を辨償金の一部に相談充當するやう交渉したが同倉庫經營の關係者木村應せぬので組合長木村清治氏は清治、酒井專治、早川鐵藏の十八日平警察署に説諭方を願ひ他が損害を辨償したが、その際出でた。

祝 創刊五千號

磐城炭礦株式鑛業所

入山採炭株式坑務所

古河炭礦
好間鑛業所

小田炭礦
萩原鑛業部

津川炭礦
隅田川炭礦
好間元山炭礦
礦主 小田 吉治

▲本年度電話開通

平郵便局の本年度特別開通電話は二十日から通話を開始する等であるが、開通は左の六口である。

- ▲六七八番白銀町水野ふゆ
- ▲六七九番二丁目杉すし
- ▲六八〇番一丁目田原初太郎
- ▲六八一番二丁目村島武雄
- ▲六八二番二丁目宇佐美すみ
- ▲六八三番田町矢田部力

植田氏母堂長逝

石城郡四倉町字仲植田万次郎氏母堂サタ子乃自は十五日永眠した。母堂の遺言に依り萬次郎氏は四倉小學校の基本金に金參十圓を寄附した。

相馬支局通信

原町地方彌出廻り

原町地方晩秋蚤早掃きの彌出廻り初めたが、初秋蚤彌に比し解符も良好であるので買方も進む模様である。目下三十掛け見當で取引されてゐるが、今後の分は一層彌賣良好と見てゐる。ただ連日の冷温の爲め硬化病に犯され豫期の産額は疑はれてゐる。

▲原町酌婦の表彰

相馬郡原町料理屋組合では品行のよい勤儉酌婦を表彰すべく詮衝中であつたが、左の三名に決し二十日岩城屋に於て表彰式を行ふ。

- 太之助町 ▲なかや方ちよ子
- 南一番町 ▲旭や方よし子
- 初音町 ▲柳月亭方まさ子

▲金馬簾允許

優良組に對し縣警察部より今回金馬簾允許したるは十三組なる

か、その中相馬郡にては左の三組である。

- ▲大塚組 ▲高平組 ▲金房組

▲郷軍實彈射撃

郡新地村在郷軍人分會にては十月六日午前九時より同村大清水の射場に於て實彈射撃會を開く

▲鮪の大漁

原釜にては久しく不漁続きであつたが最近タコの不漁漁に活氣を呈し非常に賑ひを見てゐる。目下下水揚げと同時に東京市場に直送してゐる。

北相馬雄辯聯盟會

相馬郡北相馬各町村中村町、駒ヶ峯村、大野村、山上村、八幡村、飯豊村、磯部村、日立木村青年雄辯聯盟會を組織せんと有志中村小學校に合會し協議の結果、これが設立を見たので来る十月二日中村第一小學校に於て發會式を兼ね大雄辯會を催す事となり、同會長には馬場中村第一小學校長を薦推した。

外科 一般外科 内臓外科 性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)
元赤心堂病院跡
安齊外科醫院
電話四七五

病院向きの
貸家を求む
(姓名在社)

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・アランク・白 1.10
マルソー・ルージュ 赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

鼻の薬「チクノール」
平五 山野邊藥局

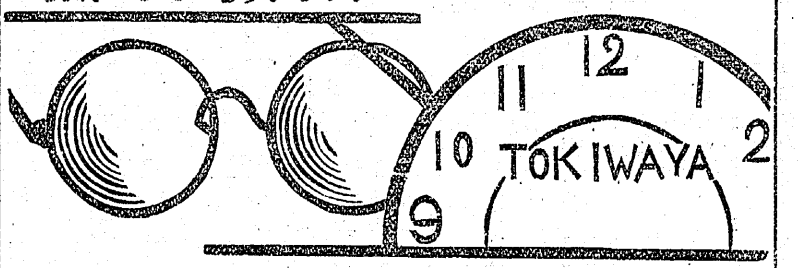
腸胃 専門 内科
十二指腸 腸胃病 胃腸病
松村 町南町平

梅毒 専門 皮膚科
淋病 婦人病
院醫科 (七〇一話電)

蒲鉾製造販賣開始
夏期氷水營業中は特別の御引立を蒙り有難く御禮申上ます。
扱て愈々蒲鉾の期節が到来しましたので本日より製造販賣を開始致しましたから從來同様御蟲負に預り度く願ひ上げます。

蒲鉾 平町一丁目
藤寅 電話一四一番

専門眼科醫師擔任
無料検眼
無料検眼券 御利用下さい



信用アリ正確味萬点ノ時計
御客様本位の.....眼鏡部

常盤屋時計店 電三三九

官許ろくまく炎特效薬
治淋新劑 絶無・廣く賞讃さるゝ所以也

強タカジン
(定價一圓、二圓、三圓)

特約店 平町一丁目
大平屋藥店
電話六二番

◎レコード破りの石炭大特賣
磐城炭 礦一二等炭
正味十貫匁一俵金卅錢也

「品が良く」「値は安く」をモットーとする當店は、此度超破格の格安石炭を販賣開始致します。値が安くとも品は悪くはありません。磐城炭礦の總分的大堀出物です。品物の無くならない中に御注文下さい。

御注文は 一俵より致します
電話三三七番へ
平停車場前
阿部石炭商店

貸家廣告
平町三丁目二八番
元鈴木はきもの店
二階建土蔵、店、勝手、座敷、煉瓦倉庫附及水道 其他附屬品一切
右御希望の方は當店へ御來談下さい

鈴木宅

秋とサロンの
サロンの黒ビール
天は高く 氣は朗かに
美味にして 芳醇の香高き

サロンの黒ビールを召せ

平看護婦會
會長 清野キヨ
平町字南町 電話三〇七番

看護婦派出の需めを應じます